

SME日本支部 創立55周年を祝して



青山 英樹

SME 日本支部 支部長
(慶應義塾大学 理工学部 教授)

SME 日本支部創立55周年を迎え

1962年、SME(Society of Manufacturing Engineers)東京支部が創立されました。2016年には名称を日本支部に変更し、2017年に通算55周年を迎えるに至りました。多くのものづくり技術者・教育研究者の皆様のご支援を頂き、55年間の活動を行ってきましたことにつきまして、この場をお借りし心から感謝とお礼を申し上げる次第です。SME日本支部では、月例会の企画・開催、資格試験の実施と講習会開催、資格維持サポート及び資格者へのサービス、SME本部事業への参加・協力、SME出版書籍の販売、SMEライブラリーの企画作成などを行っております。その実施におきましては、ステアリング委員会、サーティフィケーション委員会、プログラム委員会、ジャーナル委員会の委員長・委員の皆様のご尽力の基で継続が実現されてきました。歴代の支部長を初めとする顧問の皆様や各委員長・各委員の皆様のご貢献に関しまして、改めて敬意を表させていただきます。

SME東京支部が誕生して55年の間、ものづくりの姿は大きく変貌してきておりおます。1956年には日本でNC制御装置が開発され、1950年代の終わりにはNC工作機械が実用化されております。その後、工作機械は急激に進化してきました。日本における工作機械の開発は、世界における工作機械の発展において、リーダー的に牽引してきたと思われまます。また、日本における金型製造技術もまた、世界の金型技術を発展させ、低コストで高品質な工業製品の製造を実現し、人々の生活を便利にしてきました。日本の工作機械製造技術・金型製造技術は、日本そして世界のものづくりの基板として大きく貢献してきました。

最近では、IoTやAI技術を基盤として、ものづくり情報の効率的収集とその有効活用技術が注目されています。ドイツのIndustry 4.0に端を発した動向のように報道されているところがありますが、この技術開発は日本では20年も前から行われており、世界の動きに全く遅れをとることなく、日本の最新工場では、IoT・AIを駆使したシステムが導入されています。この領域での技術開発でも、日本の技術が世界の先を行くことが十分に期待できます。

日本は、ものづくりにおいて、これまで世界において先駆者でありました。これからもそのように願いますが、これからは今までと同じ体制ではどうでしょうか。工業製品が機械・電子・電気・情報・制御の融合物となっており、その開発においては、それぞれの分野のエキスパートが協力する体制が必要です。このために、産(企業)の技術者に加えて学(大学)の研究者と学生(博士、修士)が一体となって協力し世界に立ち向かう体制の構築が必要です。これからのSMEは、このような体制作りのためにも何らかの貢献をできることが重要と思っております。私の日本支部長としての任期は残り少ないですが、次期支部長に私の思いをお伝えし、SME日本支部がプレゼンスをますます高め、日本のものづくりに貢献していくことを願っております。